

都道府県名	石川県
-------	-----

学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	柳田村立柳田小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	15
児童数	25	37	33	32	29	39	1	196	

研究の概要

1. 研究主題

『「確かな学力」向上のための個に応じた指導の改善』
～一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1 年生：国語，算数（特にきめ細かな指導を必要とする 1 年生において T T 指導を実施し学校生活の適応を図る。）
2 年生：国語，算数（繰り返し指導や，補充的な学習により，基礎・基本の定着を図る）
3 年生：算数（理解度に差が出やすい教科なので，T T 及び少人数授業を取り入れて，きめ細かい指導を行う。）
4 年生：算数（理解度に差が出やすい教科なので，T T 及び少人数授業を取り入れて，きめ細かい指導を行う。）
5 年生：算数，国語，総合（理解度に差が出やすい教科なので，少人数授業を中心に，個に応じた指導を行う。）
6 年生：算数，国語，総合（人数が一番多く，よりきめ細かな指導を行うために少人数授業を中心に 行う。）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 『「確かな学力」向上のための個に応じた指導の改善』</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語，算数において基礎的・基本的知識・技能を確実に定着させることによって，学ぶ力すなわち学び方・考え方や学ぼうとする力（学ぶ意欲・関心・態度）がより身につくのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握（児童理解・学力調査） ・「読み書き計算」の徹底指導 ・個に応じた指導のための指導法・指導体制の改善 ・発展的学習や補充的学習など個に応じた指導のための教材の開発 ・評価規準の作成 ・児童の学力の評価を生かした指導の改善 ・「漢字・計算まつり」の実施
--------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 15 年 度	<p>テーマ 『「確かな学力」向上のための個に応じた指導の改善』</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎的・基本的な知識・技能を身につけた児童は、それを土台として問題解決のためのより豊かな思考力や的確な判断力、個性的な表現力を身につけるのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握（児童理解・学力調査） ・家庭学習，自主学習の充実 ・弾力ある教育課程の創造（ドリルタイム等の創設） ・発展的学習や補充的学習など個に応じた指導のための教材の開発 ・体験的，問題解決的学習の積極的導入 ・指導と評価の一体化（形成的評価の重視，関心・意欲・態度の評価，相互評価，自己評価の導入） ・評価規準の活用 ・「漢字・計算まつり」の実施 ・総合的な学習のねらいの明確化と活動内容の充実 ・研究発表会の開催（公開授業）及び講演会の開催
平成 16 年 度	<p>テーマ 『「確かな学力」向上のための個に応じた指導の改善』</p> <p>～一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を通して～</p> <p>（児童のより確かな学力の向上を図るためサブテーマを設定する）</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，自ら学び，考える力をつけた児童は，新たな課題に創造的に取り組む意欲を育むのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <p>平成 15 年度と同様。</p>

(3) 研究推進体制

<ol style="list-style-type: none"> 1 研究推進委員会（校長，教頭，教務，研究主任，TT（少人数）担当 2 名の計 6 名） 2 評価検討部会，家庭学習部会，きめ細かな指導部会の設置

平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の一体化から，形式的評価を利用し児童のつまづきを診断することによって児童の思考の変容を確認できた。 ・教材の開発工夫の点から生活体験を大切に教材を使用することによって児童は意欲的に授業に取り組んだ。また具体物を提示することによって児童はその操作の中から図式化できるようになった。 ・課題づくりを工夫することで意欲的に調べたり，自分の考えを持ったうえで友達の話の聞いたりなど，積極的な姿勢が見られた。 ・少人数授業によって自分に合った学習コースを選べることで基礎・基本を着実に身に付けることができた。

- ・少人数授業により意識の高まりが見られ，集中力や発言力がついてきた。
- ・少人数授業は児童一人一人の考え方を把握できるので，授業の組み立てがしやすい。

2. 今後の課題

- ・コース選択のためのレディネステストの出来，不出来によって児童に，コースに対する優越感や不安感を抱かせないよう配慮することが大切である。
- ・低学年 T T 授業で国語の単元によっては少人数を取り入れる。
- ・指導体制において，少人数授業を固定化するのではなく，一斉指導から少人数・T T 授業へ，又少人数・T T 授業から一斉授業へと児童の理解度などを考え，状況に応じて切り替えをする。
- ・興味・関心の度合に応じた課題を選択して学習をする体験・経験学習に取り組む。
- ・単元の終わりには児童の理解に応じて補充的・発展的課題を設けて理解力アップを図る。

学力把握のための学校としての取り組み

- ・年 1 回（15 年度は 2 月下旬か 3 月上旬予定）の学力調査の実施
- ・漢字・計算まつりにおいて各回の比較の実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成 15 年 6 月に公開授業を実施
- ・学力向上フロンティアスクール関連の研究会において研究経過を報告
- ・学校ホームページにおいて取り組みを掲載
- ・16 年 10 月に 3 年間の研究成果を発表予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15 年度からの新規校	・ 14 年度からの継続校
【学校規模】	6 学級以下 13～18 学級 25 学級以上	・ 7～12 学級 19～24 学級
【指導体制】	・ 少人数指導 一部教科担任制	・ T・T による指導 その他
【研究教科】	・ 国語 生活 体育	・ 算数 図画工作 その他
	・ 社会 音楽 ・ 総合	・ 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	・ 有	無